

# 陽成太鼓踊り



太鼓踊りは、農家の青年が集団で太鼓や鐘を打ちながら跳びはねる踊りで、踊りの始まりは、島津義弘公が朝鮮征伐の出陣祝いであるとか言われ、農村の気風を鼓舞するため、薩摩藩が大いに奨励して躍らせたものだと言われている。その後、地区の氏神に太鼓踊りを奉納し、五穀豊穰を祈願されるようになっている。

一條神社の例祭は8月8日（新暦）に行い太鼓踊りが奉納されている。

この太鼓踊りも一時は途絶えていたが、平成7年8月5日南方神社を一條神社に合祀したのを機に復活し、現在では小学生・中学生・高校生を中心に、8月8日に近い日曜日に毎年奉納している。

以前太鼓踊りは、最初に四牧のブギョンドン（仏教殿）で踊り、次に高城神社で踊ったあと、踊り人は移動するときは麦之浦川の西と東の二手に分かれ道楽（みちがく）を打ち鳴らしながら歩いて一條神社まで行き奉納し、その後に今度は比志利（ひじり）神社（サンナイドン）に向かってもう一度踊られたそうである。

南方神社でも9月19日に例祭が行われ、太鼓踊りが奉納されていた。

ここの太鼓踊りには、鬼神が出てくるもので、また兵六踊りもあり珍しいものであった。南方神社は村社であったため、戦前は村長か代理の方が来て祭りが行われ、小学校の児童も参加していた。

一條神社も南方神社も太鼓踊りのほか、手踊りや何軒もの出店も並んで大変にぎやかであった。

## 【奉納・披露】

日程：毎年8月8日に近い日曜日

場所：一條神社（陽成町）